



「多元計算解剖学」の創成に向けて

多元計算解剖学の夏

多元計算解剖学に関する熱い議論が交わされた夏でした

文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究「多元計算解剖学」の2度目の夏が過ぎました。今年、サマーワークショップ、サマースクール、そして、医用画像に関連する学会での多元計算解剖学特別企画など熱い議論が交わされた夏でした。本号では、これらのイベントに深くかわられた大竹義人先生（奈良先端科学技術大学院大学）、平野靖先生（山口大学）にレポートしていただきます。

多元計算解剖学 サマーワークショップ

2015年8月24日～25日に、コスモスクエア国際交流センター（大阪南港）にて多元計算解剖学第1回サマーワークショップが開催されました。領域内から24日は34名、25日は27名の先生方が参加され、今後の領域の

進め方について熱心な議論が行われました。初日は領域代表の九州大・橋爪先生からのご挨拶および当初の領域目標についてのご発表の他、各研究班の目標、領域内連携、学理構築について議論されました。二日目は、人材育成、医学・医工学応用についておよび、研究成果の還元について議論しました。学術調査官の文部科学省石川佳治先生にもご参加頂き、本研究領域に対する社会的な期待の大きさについて激励のお言葉を頂きました。橋爪領域代表からは国際共同研究の樹立、計画班・公募班間での共同研究、学術論文発表を各施設で年間3本ずつ、全体で年間100本を目指すという具体的な到達目標が示されました。このサマーワークショップでの議論結果をもとに、領域内での共同研究がよ

多元計算解剖学 News Letter



多元計算解剖学

Multidisciplinary Computational Anatomy

2015/10

特集 多元計算解剖学の夏

り活発に行われることが期待されます。



(レポート：大竹義人)

多元計算解剖学 若手サマースクール

2015年9月19～21日にアクティプラザ琵琶で第1回多元計算解剖学若手サマースクールが開催されました。参加者は、工学系若手研究者23名、医学系研究者3名、招待講演者など3名の合計29名でした。サマースクールでは、佐藤嘉伸先生（奈良先端科学技術大学院大学）と大城幸雄先生（筑波大学）による論文の書き方や研究に対する姿勢な

どに関する招待講演や、愛知工業大学・北坂孝幸先生による共同研究などに関する講演がありました。また、あらかじめ提案された臨床的ニーズに基づいて、若手研究者が主体的に研究グループを作り、研究の進め方とゴールを設定しました。今回のサマースクールでは、「体部 CT における 正常虫垂の自動検出」「拘束条件付き 2D-3D レジストレーションを用いた X 線動画からの胸部動態の解析」といった共同研究テーマが設定されました。

今後、国際会議や論文などで若手研究者からの成果が期待されます。



(レポート：平野靖)

日本医用画像工学会大会における多元計算解剖学特別セッションが開催されました！

2016年7月31日に金沢・歌劇座で行われた第34回日本医用画像工学会大会（大会長・金沢大学・真田茂先生）において「多元計算解剖学と診断・治療支援への展開」と題した特別セッションが開催されました。このセッションでは、清水昭伸先生のリズミカルな司会の下、多元計

算解剖学領域代表の橋爪先生はじめ、本谷秀堅先生（名古屋工業大学）、小林英津子（東京大学）、田中利恵（金沢大学）、山田重人（京都大学）、原口亮（国立循環器病センター）花岡昇平（東京大学 大学院医学系研究科）、そしてこの記事執筆している森健策（名古屋大学）が参加し、多元計算解剖学の展開について熱い議論が交わされました。これらのパネリストは、計画班代表、そして、2015年4月に採択された公募班代表から選ばれました。学会大会での多元計算解剖学に関する特別セッションは、平成27年では5月に名古屋で開催された第54回日本生体医工学会高いに続いて2度目となります。

まず、パネリストが簡単な発表を行ったのち、司会並びに学会参加者の皆さまからパネリストに対して厳しい質問が寄せられました。このなかでは、「今のプロジェクトでもっとも弱いところは？」「多元計算解剖学は筋が良いか？」「昔の教科書にはアノマリーがたくさん載っていた。多元計算解剖学でもアノマリーを重視するでは？」「海外での多元計算解剖学に関するレスポンスは？」などといった問いかけがなされ、パネリストがそれぞれに対して回答を行っていました。領域内外の人から寄せられたコメントなどを踏まえながら、領域内で研究を進展させる必要があると感じた特別セッションでした。



(レポート：森健策)

2月に第2回国際シンポジウムを開催します。

科研費新学術領域「多元計算解剖学」では2016年2月11、12日に名古屋大学にて国際シンポジウムを開催します。

